

「総合的な探究の時間」の事例

個 別 の 人 権 課 題			性的指向・性自認		
校 種	高等学校	3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	○	
対 象 学 年 等	第3学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	◎	
教 科 等	課題研究		技 能 的 側 面	◎	
単 元 名	課 題 研 究				

1 目 標

学校の「課題研究」の目標は、「商業に関する基礎的・基本的な学習に基づき、商業の各分野に関する課題を生徒自らが設定し、主体的かつ協働的に課題を探究し、課題の解決を図る実践的で体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめとする経済社会の健全で持続的な発展に資することのできる資質・能力を育成する。」です。

2 概 要

本事例は、3学年の総合的な探究の時間の代替として設定している「課題研究」の実践の一部です。生徒自らがもつ課題意識に基づいてグループをつくり、商業に関する各分野（会計分野、ビジネス情報分野、マーケティング分野、マネジメント分野等）に関連する課題をグループごとに設定して、地域で活躍する人々などから学びながら解決策を考え、発表していきます。

これらのグループの中から、全ての従業員が働きやすい職場づくりを目指してLGBTの問題に取り組む企業に着目し、「性的指向・性自認」について理解を深め、多様性が尊重される社会に必要なことについて考察し提案することを目標として課題を設定したグループの事例を紹介します。

3 課題研究の指導計画

- 【目標・課題設定】ガイダンス、テーマ検討・設定、年間計画の作成（4～6月）
- 【探 究】情報収集・分析、中間報告会、地域調査の計画・準備（7～9月）
- 【計画の再検討】地域調査、研究成果まとめ、学習成果発表会準備（10～12月）
- 【発 表】学習成果発表会、まとめ（1～2月）

4 人権教育との関わり

性的指向や性自認などについての正しい知識が普及し、地域社会や職場などで生じている偏見や差別が解消され、全ての人が自分らしく生きることができる社会をつくっていくことが必要であるとの課題意識をもち、これからの社会に求められることについて考察し提案していく学習過程の中で、上記1の目標が達成されるとともに、多様性に対する開かれた心や人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度が生徒に育まれたと考えられます。また、当事者と直接会って対話する機会を設定したことで、他者の痛みや感情を共感的に受け止めるために必要となる想像力や豊かな感受性等も育むことにつながったと考えられます。

3つの側面については、次のような内容を育成することができると考えられます。

知 識 的 側 面	人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度
技 能 的 側 面	他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能

5 実際の様子と生徒の感想



講師の講話の様子

講師を招聘し、講話を聴く機会を設けました。講師の方には、性的指向や性自認に関する基本的な考え方や、自分らしく生きることができる社会の実現に必要なことなどについて、講師自身の写真などをたくさん使いながら、自らの体験を基にとてもわかりやすく話していただきました。



対談・インタビューの様子

講演終了後は、考えたことや感じたことなどを生徒と講師の間で自由に交流したり、自分たちがわからなかったことについて講師に質問したりしました。講師の方から、答えにくいかもしれないといったことは気にせず、どんどん質問してほしい、との言葉があり、生徒も積極的に話をすることができました。

また、2月に実施する課題研究成果発表会に向けた準備について、具体的なアドバイスをもらうこともできました。



学習成果発表会での発表の様子

課題探究のまとめとして、ポスターセッションの形式で、3年生全体で学習成果を発表しました。どのグループも資料を工夫してわかりやすく発表することができました。

テーマ：性の多様性について理解を深めよう

概要：①テーマ設定の理由

②意識調査の結果について

③外部講師の講話について

④まとめ（考えたこと）

■■■ 3つの側面との関わりが見られる生徒の感想（抜粋）より ■■■

【知識的側面】

- ・性的指向や性自認について理解を深めることができた。
- ・性の多様性を考えることは、個性や自分らしさについて考えることにつながるということがわかった。

【価値的・態度的側面】

- ・性的指向や性自認について学ぶ機会を積極的につくっていくことを大切にしていきたい。
- ・この研究を通して制服の在り方についても考えるきっかけとなったので、引き続き考えていきたい。